



やぐもだい

令和5年8月29日
調布市立八雲台小学校
校長 上田 義孝
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>

「 善い方向へ 」

校長 上田 義孝

明るく元気な子供たちが、学校に戻ってきました。今日から2学期が始まります。夏休みは、健康で安全に生活することができたでしょうか。2学期も子どもたちの元気と学びを支えることができるよう、教職員一丸となって努めてまいります。よろしくお願いいたします。

さて、私が夏休みに読んだ本の中に、3つの考えが示されていました。

○人間は善を行うべき道徳的本性をもって生まれてくる。だから善い心が悪くならないように善い行いをほめてどんどんするようにし、悪いことはしないようにきちんとしつけるべきだ。（性善説：孟子）

○人間は利己的欲望をもって生まれてくる。だから悪い行いをやめさせるために、善い行いを示して、悪い心がだんだんと善い心になるように教えなければならない。（性悪説：荀子）

○人間は白い紙のように善悪の区別のない状態で生まれてくる。生活や社会体制などの後天的な理由で悪になったりする。だから善いことと悪いことの区別がつくように教え、善いことはすすんでるようにし、悪いことはやらないように教え諭していかなければならない。（白紙説：ロック）

これらに共通することは、「善いことと悪いことをきちんと教えること。善いことをしたらほめ、悪いことをしたらそれは悪いことと教え、しないようにする。」ことです。学校では子どもたちが集団の中で善悪を学びながら、個々の将来に向かって進むことができるよう、指導法の工夫を、教員の研修や学びあいを通して深めています。ご家庭でも、子どもがよりよい生活をできるよう、学びやしつけを家庭教育のなかで充実させていくことで、これからの未来を支える素晴らしい一人として成長できるのではないかと考えます。そのためには、学校と家庭とが協力し合い、子どもの成長を促していくことが望まれます。

最近、「社会全体が人手不足などで慌しくなり、子どものもめ事を、本人の話を聞かないまま、大人のお考えだけで子どもに納得させ、解決に進めようとするところがある。子どもは子どもとして生きにくい。」という講話を聞きました。「〇〇だったからこうなったんじゃないの」とか「〇〇さんはこう思ってたんじゃないの」といった推測が、大人から子どもに次々と投げかけられ、大人が納得できるように方向づけてしまうのがその例だそうです。

子どもには子どもの考えや思いがあり、それをなかなかうまく表現できないうちに、大人が推論してしまうという状況を改善していくことが大切だそうです。嘘のない事実や考えを子どもからしっかりと聞き、見つめ、様々な事象や事実を確認し、判断し、「友達の邪魔をしたり、傷つけたりしてはならないこと」「嫌なことや迷惑になることはやめること」「自分のすべきことを怠けないこと」「必要に応じて謝ったり、お詫びしたりすること」などをきちんと教えていく必要があります。その子の将来にとって、また、子どもの集団や社会にとっても好ましくないことは、学校でも繰り返し指導していきます。ご家庭におかれましても、お子さんの生活に即して話し合い、善い方向に導いていただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。